

平成 17 年 4 月、京都御苑内に開館した京都迎賓館の一般参観に行ってきました。この一般参観は、11 日間実施され、定員総数 5500 人（1 日の定員 500 名）に対し、参観希望者のはがきは約 8 万 4 千通もあったそうです。応募期間中に、2008 年のサミット誘致を関西で、そして会場を本迎賓館でというニュースが流れたこともあり、希望日別では最高約 48 倍になるなど、予想以上の応募総数となりました。

## 京都迎賓館とは

内閣府のホームページを参照し京都迎賓館の概要をまとめると以下となります。

（この迎賓館は、京都御苑内にあるのですが、運営は宮内庁ではなく内閣府が行っています。）

（<http://www8.cao.go.jp/geihinkan/index.html>）

日本への理解と友好を深めることを目的に建設した国の迎賓施設

日本の伝統的な住居である入母屋屋根と数奇屋造りの外観

数奇屋大工、左官、作庭、截金（きりかね）など、数多くの伝統的スキルを活用

西陣織や蒔絵（まきえ）、漆などの伝統的スキルを活用した家具を配置

国公賓などの賓客の接遇の場としての役割



迎賓館正面玄関

この京都御苑という国民公園内での建設に際しては、地元からの反対の声もあったことも事実です。国民公園とは、戦前までは旧皇室苑地であった皇居外苑、新宿御苑、京都御苑の3つの公園で、ここでは建設行為は禁止されています。このことが住民の反対を後押しすることになりました。

いわばまち全体が歴史的資源である京都。中でも広大な空間を有する御苑は、迎賓ということにおいては、これ以上ない絶好のロケーションでもあり、双方の想いは計画者にとって複雑な心境であったことでしょう。

## ロビー溜まり

参観は、館内の約半分を巡るコースが設定されており、各場所では、調度品や建築様式についてガイド役の方から説明が受けられます。

日本瓦屋根の伝統的スキルを活用した築地塀を有する建築様式を堪能し、玄関からロビー溜まり、大会議室に向かいます。



大会議室

## 建築そのものが美しい工芸品

西陣織の壁面装飾を施した大会議室では、調度品が並べられ、参観者はその完成された工芸品に釘付けとなっていました。

美しい庭園が望める廊下を抜け、本参観で一番空間を有する晚餐室に入ると、壁一面に施された美しい西陣織の装飾に目を奪われます。

そして圧巻なのが、折り紙のようにシンプルな日本の伝統美を感じさせる和紙格子の照明で、これは機械制御によりいくつかのパターンを楽しめるものとなっています。

左)晚餐室 右)庭園



補強と装飾を兼ね備えた金物

中央に長さ 12 メートルにも及ぶ漆塗りの座卓を配した和室（大広間）からは、平成の和風庭園を目指してつくられた池のある庭園が望め、まさに京都で培われた「しつらい」と「もてなし」が随所に感じられる空間を形成しています。



中央にある廊橋からは、庭園、池と建物が調和をした迎賓館のシンボリックな風景が望め、まさに京都が凝縮したような小世界を形成していました。

京都が凝縮したような格式のある平成の和風庭園



和室近くにある、時の総理大臣  
小泉首相直筆の掛け軸



左) 廊橋から南側を見る (大会議室側)  
右) 廊橋から北側を見る